

第75回東北薬剤師会連合大会 ～2024.11.9-10 仙台市～ 開催報告 大会テーマ「つなげよう東北～地域連携を考える～」

令和6年11月9～10日、宮城県仙台市の江陽グランドホテルを会場に、第75回東北薬剤師会連合大会が開催されました。東北6県持ち回りでの開催で昨年度は岩手県、今年度は宮城県が担当で、講演会と薬事衛生功労賞などの表彰が行われました。

1日目は特別講演として、

「安全、強靱で活力ある社会を目指し、国民とともに前進する気象業務」
「薬剤師の災害支援」の2講演がありました。

講演1は仙台管区気象台 気象防災部 気象防災情報調整官の鈴木達也氏より、「気象防災情報調整官」としての昨今の豪雨対策への取組や知見についてご講演いただきました。

講演2は公益社団法人日本薬剤師会常務理事(災害対策担当)の山田卓郎先生より、能登半島地震への取組や、今後の支援体制等についてご講演いただきました。

講演会後の式典では、薬事衛生功労者表彰式が執り行われ、青森県からは柴崎崇先生と桑野真四郎先生が表彰されました。

その後の懇親会では、東北6県の理事チーム・会長チームなどでのゲーム大会が開催されたこともあり、東北の絆が一層深まりました。

2日目は特別講演とシンポジウムがありました。

特別講演は公益社団法人日本薬剤師会副会長 荻野構一先生より、「これからの地域連携を考える」としてご講演いただきました。

シンポジウムでは「災害に強い地域包括ケアを目指して～平時の地域連携を考える～」をテーマとして各県より発表がありました。

青森県からは昨年度実施した事業を基に、

「残薬調整を活用した健康サポート機能充実事業報告(抜粋)の解析より見えたこと、薬局は地域包括にどう資するのか？」として、青柳常務理事より発表がございました。

今年度もまた、東北6県の薬剤師と日本薬剤師会とで貴重な意見や情報交換のできた、有意義な二日間でした。

来年度は福島県での開催となります。青森県からも多くの先生が参加し、研修・交流の機会を得ていただけたらと思います。

※講師のみなさまの詳細な肩書等につきましては、次第等をご確認ください。



会場の様子



青森県からの発表



青柳専務理事



懇親会の様子



ゲーム大会

第75回東北薬剤師会連合大会 大会日程

期 日：令和6年11月9日(土)・10日(日)

会 場：江陽グランドホテル

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 2-3-1

テーマ 「つなげよう東北 ～地域連携を考える～」

1 日目 / 11月9日 (土)

14:00 受付開始

15:00 開会

15:05 特別講演 1

「安全、強靱で活力ある社会を目指し、国民とともに前進する気象業務」

仙台管区气象台 気象防災部 気象防災情報調整官 鈴木 達也 氏

特別講演 2

16:10

「薬剤師の災害対策」

公益社団法人日本薬剤師会 常務理事 (災害対策担当) 山田 卓郎 氏

16:45 大会式典

1. 開会の辞

2. 大会長あいさつ

東北薬剤師会連合会 会長

一般社団法人宮城県薬剤師会 会長 山田 卓郎

3. 来賓紹介及び来賓祝辞

宮城県知事 村井 嘉浩 様

仙台市長 郡 和子 様

公益社団法人日本薬剤師会 会長 岩月 進 様

4. 薬事衛生功労者表彰式

5. 次回開催県あいさつ

一般社団法人福島県薬剤師会 会長 長谷川 祐一

6. 閉会の辞

18:15 懇親会

2日目 / 11月10日 (日)

9:00 挨拶

9:05 特別講演

「これからの地域連携を考える」

公益社団法人日本薬剤師会 副会長 萩野 構一 氏

9:35 シンポジウム

「災害に強い地域包括ケアを目指して - 平時の地域連携を考える -」

1. 【岩手県】「災害対策 盛岡薬剤師会と行政・岩手県薬連携強化」

盛岡薬剤師会 会長 佐々木 俊 氏

2. 【福島県】「原子力災害と薬剤師」

福島県薬剤師会 常務理事 / 天薬局 小澤 佳嗣 氏

3. 【山形県】「豪雨災害に立ち向かう

～ 被災した村唯一の薬局による避難者への支援 ～」

山形県薬剤師会 常務理事 / ほし薬局 星 利佳 氏

4. 【秋田県】「秋田県のがん治療における専門薬剤師育成と地域連携について」

秋田県病院薬剤師会 会長 / 能代厚生医療センター 薬剤科 薬剤長 平泉 達哉 氏

5. 【宮城県】「宮城県におけるがん専門薬剤師の育成と連携強化の取り組みについて」

宮城県薬剤師会 常任理事 / 東北大学病院 薬剤部 副薬剤部長 松浦 正樹 氏

6. 【青森県】「残薬調整を活用した健康サポート機能充実事業報告（抜粋）の解析より見えたこと、薬局は地域包括にどう資するのか？」

青森県薬剤師会 専務理事 / なの花薬局五戸店 青柳 伸一 氏

11:35 総括

12:00 閉会

残薬調整を活用した健康サポート機能充実事業報告(抜粋) の解析より見えたこと、薬局は地域包括にどう資するのか？

青森県薬剤師会 専務理事 / なの花薬局五戸店
青柳 伸一 氏

【要旨】

有効回答数 1168 回答。回答薬局数 459 (77.8%の協力 対象 590 薬局) 本調査での残薬の経験の有無は 残薬の経験あり 80% 残薬の経験無し 20% (n=1168) 男女比 男性 42% 女性 58% であり日本における外来医療利用人数と有意差はない。残薬の発生理由は様々あるが ・以前からの飲み忘れ 33. 2% ・症状改善にともなう自己判断による中止 20. 2% ・その他の理由 14%等が続く 過去の他の調査でも「その他」が高い比率で示されており本研究では「その他の理由」14% (180 回答) に着目して分析している。「その他の理由」回答内容から 4 分類し、地域の薬剤師が患者本人はもちろん多職種と協力して解消の可能性が示された。在宅医療のみならず、外来患者においても、多職種連携のキーはどのような所にあるのかを、検討したので報告する。

【プロフィール】

一般社団法人青森県薬剤師会 専務理事
一般社団法人八戸薬剤師会 副会長
株式会社 なの花東北 専務取締役 医療安全対策室
なの花薬局 五戸店 薬剤師